

から家族を歌った方だと思えます。父親にとつて子供は、特に女の子は新鮮で、ミスティアスでした。私が家庭でどんな父親だったか、娘たちに訊いたら口々にいろいろ言うでしょうね。五十近くになった三人の娘、今は飲み友達かな。

8 若山牧水が大きな存在になったのは、いつ頃からですか。何かきっかけがあったのでしょうか。

作歌を始める前から、牧水・啄木・白秋の歌集は文庫本などで読んでいましたが、牧水全集をきちんと読んだのは、牧水生誕一〇〇年記念の企画で宮崎日日新聞に十五

回の牧水論を連載した時でした。結びのところで「家を捨て、故郷を捨てることによつて明治以降の青年たちは〈成長〉した。

しかし、牧水は家を捨てなかつたし、故郷も捨てなかつた。ただ、家から離れ、故郷から離れたのに過ぎなかつた。捨てたのであれば家や故郷との内面の格闘がもつとあつたはずである。(中略)確かに『みなかみ』には、格闘とまでは言えぬにしても、家や故郷の問題をめぐる懊悩がある。しかし、故郷を去り上京してしまうとその懊悩は消

えてしまうのである」などと書いています。故郷に帰った私が帰らなかつた牧水はどう捉えたらいいかが問題意識としてあつたように思います。

9 伊藤さんにとつての、牧水のこの歌集、この一首は？

『別離』か『みなかみ』か『くろ土』か迷いますが、やはり『別離』でしょうか。この一首はへげふもまたころの鉦かねをうち鳴なしうち鳴なしつつかくがれて行くです。『あくがれゆく牧水』という本も書きましたし、「あくがれ」が牧水の本質と考えています。

10 牧水は〈旅の歌人〉とも言われますが、伊藤さんには〈旅への思い〉ありますか。

旅することは好きです。初めての自然に出会い、初めての人々と語らい、初めての地酒を飲むのはいいですね。旅の歌も作ります。第七歌集『日の鬼の棲む』はほとんど旅の歌だけで成り立っている歌集です。東北から屋久島・種子島まで旅しています。

11 『土と星と人』には、〈年の夜の神楽を拝しかへるみち闇ふかければ希望わきく

る〉という歌がありますが、今の日本、あるいは世界の状況を、どうぞ覧になりますか。

世界の国々のなかで、行きすぎた「自国第一主義」が広がっているのが心配です。そして、行きすぎた「自国第一主義」という国の姿勢は国内では他者に対して非寛容の「自分第一主義」を助長することを恐れます。日本国憲法は闇のなかの光です。

12 歌集『遠音よし遠見よし』に〈遠音よし遠見よし春は 野への道ひとり行きつつ招かれてをり〉と詠まれましたが、今後、伊藤さんが歩まれる「道」は？

先のことはわかりませんが、新型コロナウイルス感染拡大のため、今年に延期になった宮崎での国民文化祭をまず充実したものにしたいと思っています。秋の全国高校生みやざぎ短歌甲子園、私が台本を書いた牧水の短歌オペラの上演等、関係者と準備を進めています。佐佐木信綱(願はくはわれ春風に身をなして憂ある人の門をとばや)の精神で、「宮崎歌会」の皆と一緒に歌の仲間を広げてゆけたらと思います。